

カンガルーシップ活動
ネイバーサポートプロジェクト
実施報告書

報告日	平成28年2月19日
学校名	香川大学教育学部附属坂出小学校
PTA会長名	植田博司

実施概要	実施活動名	特別支援教育講演会
	実施日時	平成28年2月16日
	実施場所	附属坂出小学校体育館
	実施目的	特別に支援を要する児童理解のため
	実施内容	講演
	実施方法	授業参観後に講演会を設定した。
	参加人数	350名

報告事項	内容	<p>授業参観後、香川大学教育学部特別支援コースの坂井聡教授による講演会を「必要な支援と適切なかかわりー合理的配慮とはー」と題して実施した。</p> <p>必要な支援があったから天才になれた、エジソン、アインシュタイン、ダビンチ等の話から、障がいについての考え方は「一緒に活動や参加ができないこと」であり「支援を受け一緒にできれば障がいではなくなる」こと、誰しもできないことはあり障がいをもっていることをゲームを通して話された。</p> <p>さらに、「あなたの力」×「友の理解」×「友の助け」という式を示され、「その子の特性を理解してあげること」と「その子が必要としていることを助けてあげること」こそが合理的な配慮であると語られた。</p> <p>最後に、誰しも障がいがあるのだから、困ったときには必要な支援を求めてもいいんだ、助け合うことが目に見える附属坂出小学校にしましょうとエールを送ってくださった。</p>
	結果	<p>参加者は小学校全保護者と幼稚園年長組の保護者の希望者、及び、小学校4、5、6年の全児童であった。全350名。</p> <p>ゲームを取り入れたわかりやすい話であり、子どもからも保護者からも好評であった。感想の一部を別紙に示す。</p>
	所感	<p>児童、小学校の保護者、幼稚園の保護者、教員と多岐にわたりの聴講者であったが、どの立場でも、障がいに対する理解は一つである。上述した障がいとは「一緒に活動や参加ができないこと」であり「支援を受け一緒にできれば障がいではなくなる」こと、誰しもできないことはあり障がいをもっていること、子どもの力は「あなたの力」×「友の理解」×「友の助け」であること、を共通理解しこれからの学校教育、家庭教育に当たっていきいたい。</p> <p>今回の補助はたいへんありがたいので次年度も継続を希望する。</p>

添付書類	保護者感想、児童感想、決算書、領収書
------	--------------------

カンガルーシップ活動 ネイバーサポートプロジェクト 参加感想

提出日	平成28年2月17日
学校名	香川大学教育学部附属坂出小学校
学年	4年, 5年

- ・ 私はノーベル賞を受賞した学者たちは生まれつきの才能を必死になって磨き上げた人だと思っていました。エジソンやダビンチ、ベルなどは必要な支援があったからこそ、いろいろなものを作れたことを知りました。
さらに、今まで車いすだった人は立つことができなかつたけれど今では電動車いすで立つことができるようになったのです。だから、一緒にできれば障がいはなくなるので、自分の力や友達の助け、友達の理解が大切と言うことがわかりました。(5年女子)
- ・ 私が一番心に残ったことはけがなどをして活動に参加できないなどのことも障がいとして考えることです。例えば、骨折をして体育に参加できないことは障がいを経験したことになる話です。私はこの話を聞いて、誰でも障がいを喧々としたことがあるのではないかと思いました。他にもみんなちがってみんないいという言葉があるようにみんなに同じ支援を公平にしても、うまくいかないこともあり、一人一人に応じた支援をする必要がある話も図があつて分かりやすかつたです。
この話を生かして新しい附属坂出小学校を創っていきたいです。(5年女子)
- ・ 今日の話で一番驚いたことは、ドイツで義足をつけた人が走り幅跳びで優勝したことです。私は障がいがあるのに勝つてすごいなあと思いました。でも、普通の人の方が負けるからそれ以上飛ぶなど言われた聞いて、どうしてそんなことを言われるのかなと思いました。また、階段のように車いすの人を参加させなくするものが障がいだそうです。障がいになるものは人によっていろいろだから、みんなが同じようには難しいかもしれません。だから、自分の力や友達の助け、友達の理解は大切だと思いました。(5年女子)
- ・ 障がい者ではなく障がい物という言葉が心に残りました。足や手が不自由な人がいるだけで、一緒にできなくなる障がい物があることがわかりました。他にも必要な支援があつたからこそ天才になつたエジソンらの話や公平では解決せず、仲間の本当の力ができるように理解し支援することの大切さがわかりました。(4年男子)
- ・ 今日講演会がありました。坂井先生が必要な支援があつたからこそエジソンらは天才になれたこと、公平では解決しないこと、わたしたちの心がけで障がいはなくなること、などを教えてくれました。これから、坂井先生が言つたように仲間はずれをせず、助け合うことが目に見える附属坂出小学校にしていきたいです。(4年女子)
- ・ 一人が一人を助けることでみんなが支え合えるのです。助け合い自分を信じるのが大切です。(4年女子)

提出日 平成28年2月19日

学校名 香川大学教育学部附属坂出小学校

カンガルーシップ活動 ネイバーサポートプロジェクト 参加感想

小学校保護者

- ・障がいがあるというのは本人の問題ではなく、周りの人が決めているものだと学びました。「合理的配慮」という言葉が心に残りました。助け合い、周囲の理解が世の中をよりよくしてくれるのですね。
- ・ものごとには「できる=CAN」と「できない=CAN NOT」がある。自分自身にも当然それらはあり、「できない」ということに原因=障がいがあるとするならば、この講演を聴く前に考えていた障がいと言う概念よりも自分に対しぐっと近くにあったこととなり、大変驚きがあった。先生のご指摘通り自分や社会が障害とならないように気をつけていきたい。みんなが「できる」を体感できるように少しでも近づける世の中になってほしいし、相手の立場に立った気づきがあれば実現できると思います。
- ・題を見て特別支援のことを想像していたが、だれにでもその時々に応じた支援が必要で、それはその人によって異なるということが分かった。
- ・親も子とその人のことを思って、応じた支援ができる人になればよいと思った。
- ・人に助けてもらうだけではいけない。相手を理解し何ができるかを考える。「みんな一緒」本当にその通りである。相手を受け入れ相手を理解する。同じ目線であること。みんな人に助けられている。自分にも何ができるか、相手を理解し、わかり合えることの大切さをもう一度考えたい。
- ・坂井先生の話聞いて心に残ったことは障がいは皆持っている。私たちが障がいになってはいけないということです。皆で助け合ったり、理解して一緒にできれば障がいはなくなるという気持ちを持ち続けたいです。
- ・公平では解決できないとはどういう意味かな、と思いましたが、皆が平等になるための支援は人によって違って良いということが分かりました。
- ・誰もが障がい者になり得る、普通の生活ができる環境であれば、それは障がいではないと言うことが一番心に残りました。
- ・子どもたちに障がいの話を聞くことは理解がなかなか難しいことかもしれなかったけれど、今回の坂井先生の話で少しでも考えてくれるといいと思いました。
- ・障がいは誰もがなりうることで、助け合うことで障がいはなくなる。車いすの人が障がいではなく階段が障がいである。配慮、助け合う、手をさしのべることで活動に参加できるようになる。困ったときには助けてもらう。等、障がいについての考え方やとらえ方が分かりました。
- ・障がいは考え方によって変わってとれることに気づきました。その人にとって何が障がいなのか考えながら、子どもたちも学校生活、日常生活を送ってもらいたいです。坂井先生が言われた合理的な配慮ができる人間がたくさん増えたら社会にとって過ごしやすいのではないかと思います。
- ・私の父は目が不自由でしたが、とても明るく前向きな人でした。私が落ち込んで耳で声を聞いて分かる人でした。私が悪さしてもいつも信じてくれました。父は「目は見えなくても心に目がある心眼がある。」と言っていました。心眼で子育てをしてくれて今思うと父のそばでいると落ち着いていられました。担任の先生からも子育てを気づかせていただきました。今日の講話で改めて心眼で子育てを楽しんでいこうと思いました。
- ・車いすが障がいではなくて、車いすでは通れない階段が障がいであることが心に残りました。そして、周りの人々の心の中に障がいを作りだしてはいけないとおっしゃっていました。周りの環境がとても大事だと考えさせられました。まずは自分で頑張っただけで足りないところはまわりから手助けをしてもらえようなたたか環境はすてきでそんな学校で子どもが成長していけたらうれしいです。何よりも子どもを信じて支えてやりたいと思いました。子どもが高学年になったら坂井先生の話聞いてほしいです。

幼稚園保護者

- ・いつ誰が障がい者になるかわからないと常に思っていますが坂井先生の話聞いてどちらの立場になってもどのようにお互い支え合っていくか具体的に考えることができました。我が子にもわかりやすく親としても「階段」になるような人間にならないよう根気強く教えていけたらと思います。このような機会を頂き感謝しております。
- ・「公平では解決しないという話が一番印象に残りました。皆が同じ条件になるためには確かに差がある援助が必要だと実感しました。人は個人個人違うので違う助けでないと平等にはならないと我が子に当てはめて考えました。また、障がいは人が作ってしまうもののが残念に思いました。肢体不自由児者の人たちへの思いも変わりました。子どもたちにも分かりやすい話でとても良かったです。
- ・必要な支援があったから天才になった、はっとしました。希望？光が差し込んだ気分になりました。我が子に必要な支援、もう一度考えたいと思います。今日はありがとうございました。